

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校 金沢文化服装学院
設置者名	学校法人 金沢文化学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
服飾専門課程	アパレル造形デザイン科	夜・通信	3,420 時間	240 時間	
	アパレル基礎科	夜・通信	2,280 時間	160 時間	
	ファッションビジネス科	夜・通信	2,280 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kanabun.ac.jp/index.html ホームページに掲載予定

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校 金沢文化服装学院
設置者名	学校法人 金沢文化学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kanabun.ac.jp/index.html ホームページに掲載

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	小川商事株式会社 取締役社長	平成31年4 月～令和4年 3月	学校法人の運営に多 様な意見を取り入 れ、経営機能の強化 を図る
非常勤	株式会社クマモトニット 代表取締役	平成31年4 月～令和4年 3月	〃
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校 金沢文化服装学院
設置者名	学校法人 金沢文化学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>全科目のシラバスを整備している。 シラバスの作成・改定にあたり、全科目の記載項目を統一し、各授業回ごとの内容・その回における学習課題を具体的に記載することとした。 また、成績評価の方法や基準について、原則、授業出席状況/授業態度/提出物(作品・レポート・テスト等)により評価・点数化し、A・B・C・D・Eの5段階で評定することを基準に、各教科の特徴により授業内容に合わせて判断をする。Eは不認定となる。最終到達目標については、その授業を通して具体的に、どのような知識・技術を習得することを目標とするか、あるいはどのような力を養うか、どのようなものを制作することができるようにするか、等を具体的に記載する。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>https://www.kanabun.ac.jp/index.html ホームページに掲載予定</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価の方法や基準について、原則、授業出席状況 20%/授業態度 20%/提出物 60% (作品・レポート・テスト等)により評価・点数化し、A (100~85)・B (84~70)・C (69~60)・D (59~50)・E (49以下)の5段階で評定することを基準に、各教科の特徴により授業内容に合わせて判断をする。 通年授業の場合は、前期・後期それぞれの評価をもとに学年末に総合評価をする。 Eは不認定となる。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価においてはGPAを設定し取り入れている。 数値の算出は以下の通り、 成績評価のAを4、B=3、C=2、D=1、E=0として設定。 計算方法：(Aの単位数×4) + (Bの単位数×3) + (Cの単位数×2) + (Dの単位数×1) ÷ 合計の単位数</p> <p>成績評価の基準は以下の通り A (100～85点) B (84～70点) C (69～60点) D (59～50点) E (49点以下)</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.kanabun.ac.jp/index.html ホームページに掲載</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>その学生が、各学科で定められた授業単位を全て修得し、且つ、学院長と教職員で構成される卒業認定会議で審議し、学院長が認定することにより卒業が認定される。 授業単位の修得においては本校規定により定められた成績評価（授業出席状況/授業態度/筆記試験/実技試験/成果物等）に基づき可否を判断する。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.kanabun.ac.jp/index.html ホームページに掲載</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校 金沢文化服装学院
設置者名	学校法人 金沢文化学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kanabun.ac.jp/index.html ホームページにて公表を予定している
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾専門課程	アパレル造形デザイン科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3, 420 時間	608 時間	1,212 時間	456 時間		1,064 時間
	夜		単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		54人	0人	2人	6人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教育理念や育成人材像、普段の当該業界に属する企業経営者や採用担当者、従業員の方々からの意見を踏まえ、前年度の内容も参考にしながら、アパレルブランドやアパレル商品の企画立案とその商品の実際の製作の授業を当該年度における核の授業と設定し、それを基に全体のカリキュラムを構成する。その他、様式第2号の3-1を参照。
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3-2を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3-4を参照

学修支援等
(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・通常授業に加え、業界について幅広く学ぶため、或いは更なる知識・技術の向上を図るための特別講義を実施 ・業界企業の経営者や採用担当者、従業員等による「学内企業説明会」の実施 ・個別対応によるきめ細かな就職支援の実施 等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	11人 (91.7%)	1人 (8.3%)
(主な就職、業界等) 主な就職先は県内外のアパレルメーカーで、 企画デザイン・パタンナー・総合職・生産管理・縫製 等で就職			
(就職指導内容) ビジネスマナー講習、面接練習、文章作成指導、学内企業説明会の開催 等			
(主な学修成果（資格・検定等）) パターンメイキング技術検定、ファッション販売能力検定、色彩検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44人	4人	9%
(中途退学の主な理由) 経済上の理由、健康上の理由、進路変更 等		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談の実施や、必要に応じて学院長との面談（本人及び保護者）、保護者との連携 等（中退防止・中退者支援のための取組）		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾専門課程	アパレル基礎科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2, 280 時間	494 時間	760 時間	342 時間	684 時間	
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
5人		1人	0人	2人	6人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）教育理念や育成人材像、普段の当該業界に属する企業経営者や採用担当者、従業員の方々からの意見を踏まえ、前年度の内容も参考にしながら、アパレル商品の縫製や手芸の技術的授業を当該年度における核の授業と設定し、それを基に全体のカリキュラムを構成する。その他、様式第2号の3-1を参照。
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3-2を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3-4を参照
学修支援等
（概要） ・通常授業に加え、業界について幅広く学ぶため、或いは更なる知識・技術の向上を図るための特別講義を実施 ・業界企業の経営者や採用担当者、従業員等による「学内企業説明会」の実施 ・個別対応によるきめ細かな就職支援の実施 等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) ビジネスマナー講習、面接練習、文章作成指導、学内企業説明会の開催 等			
(主な学修成果（資格・検定等）) パターンメイキング技術検定、ファッション販売能力検定、色彩検定			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4人	2人	50%
(中途退学の主な理由) 健康上の理由、進路変更 等		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談の実施や、必要に応じて学院長との面談(本人及び保護者)、保護者との連携 等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾専門課程	ファッションビジネス 学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2, 280 時間	1,292 時間	342 時間	266 時間	380 時間	
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		34人	0人	3人	8人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）教育理念や育成人材像、普段の当該業界に属する企業経営者や採用担当者、従業員の方々からの意見を踏まえ、前年度の内容も参考にしながら、ショップ出店計画立案や接客技術の向を目指した授業を当該年度における核の授業と設定し、それを基に全体のカリキュラムを構成する。その他、様式第2号の3-1を参照。
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3-2を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3-4を参照
学修支援等
（概要） ・通常授業に加え、業界について幅広く学ぶため、或いは更なる知識・技術の向上を図るための特別講義を実施 ・業界企業の経営者や採用担当者、従業員等による「学内企業説明会」の実施 ・個別対応によるきめ細かな就職支援の実施 等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	11人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 主な就職先は県内外のアパレルメーカーで、 総合職・企画職・ファッションアドバイザー 等で就職 希望者就職率は100%となる			
（就職指導内容） ビジネスマナー講習、面接練習、文章作成指導、学内企業説明会の開催 等			

(主な学修成果(資格・検定等)) ファッション販売能力検定、販売士検定、色彩検定、スタイリングマップ検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30人	2人	6.7%
(中途退学の主な理由) 経済上の理由、健康上の理由、進路変更 等		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談の実施や、必要に応じて学院長との面談(本人及び保護者)、保護者との連携 等		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
アパレル造形 デザイン科	200,000 円	600,000 円	420,000 円	
アパレル基礎科	200,000 円	600,000 円	420,000 円	
ファッション ビジネス科	200,000 円	600,000 円	420,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.kanabun.ac.jp/index.html ホームページに掲載予定		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 評価項目を①教育理念・目的・人材育成像等、②学校運営、③教育活動、④学修成果、⑤学生支援、⑥教育環境、⑦生徒の受け入れ募集、⑧財務、⑨法令等の遵守の9項目とし、内部で評価した内容を下記委員で構成された学校関係者評価委員会が客観的な評価・検証を行い、今後の学校運営・教育課程編成等に対する意見・助言を行う。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
セレクトショップ 経営	2022. 4. 1～2024. 3. 31	生徒・卒業生
セレクトショップ バイヤー	2022. 4. 1～2024. 3. 31	関係業界
フリーランス パタンナー	2022. 4. 1～2024. 3. 31	関係業界
デザイン会社 代表	2022. 4. 1～2024. 3. 31	関係業界
石川県内の専門学校 理事長	2022. 4. 1～2024. 3. 31	関係団体
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.kanabun.ac.jp/index.html		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.kanabun.ac.jp/index.html
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	専門学校 金沢文化服装学院
設置者名	学校法人 金沢文化学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		-	-	-
内 訳	第Ⅰ区分	-	-	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				-
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に 連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-
3月以上の停学	0人
年間計	-

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	-	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	-	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。